



# 極真への道

第3号



(2014年 1月 寒行)

国際空手道連盟 社団法人 極真会館 愛媛県戸田道場 機関誌

All Japan Kyokushin Union

## 「大きな転換期（県大会開催・5段昇段）」

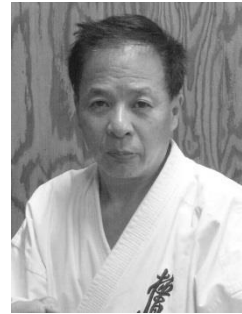
国際空手道連盟 社団法人極真会館（全日本極真連合会）

愛媛県戸田道場 師範 戸田美智男

昨年後半に入って、我々極真会館戸田道場にとり大きな出来事が2つありました。

まず一つ目は、10月13日に坊ちゃん球場で戸田道場が主催した「第1回オープントーナメント愛媛県空手道選手権大会」の開催です。

県内外の6会派から多数の選手が出場し、見ごたえのある試合を行い、愛媛新聞の報道や、愛媛ケーブルテレビでの中継放送で広く県民に知っていただき本当に大きな反響を呼び、組織設立の目的の一つである「栄えある大会の開催」ができたのではないかと考えています。



運営もスムーズに行われ、成功裡に終わったと思いますが、これも多くの方々の支援のお蔭で、なによりこのような大規模な大会を開くことができる組織に育ったことが嬉しいことでした。

今回は、9月23日の秋分の日に松山市総合コミュニティセンター体育館で開催する事が決定しています。我々の目標であるテレビ中継も計画されており、さらに大会優勝者等は大阪で行われる「グランドチャンピオン大会（全日本少年少女空手道選手権大会）」の出場権を得る指定大会になることが決まっております。これはその先のジュニア世界空手道選手権大会への道が開けるものであり、第一回大会以上に確実な運営を行う必要があります。

二つ目は、12月2日に大阪で行われた高段者昇段審査において、私が5段に昇段することができたということです。

還暦を過ぎた年齢ですが、社団法人極真会館の小井会長から勧められたこともあって、自分の実力を試してみたいという気持ちが起きて集中的に稽古をして審査に臨みました。

審査は、本当に過酷というしか表現できない厳しい内容でしたが、何とかやり遂げて無事合格し公認師範の立場になったのです。

極真空手の審査が、これほど厳しいということを身をもって経験しました。

会員の皆さまに、こんな私でも高段に合格できるということを知ってもらい、勇気を与えることができたのではないかと考えています。

また、現在を含め長い間仕事と両立して稽古を継続してきた結果であり、仕事や勉強と空手が両立できることが証明できたのではないのでしょうか。

これら二つの出来事は、組織の皆様「やればできるんだ」という機運を生むこととなり道場生の方々の自信に繋がったのではないかと考えています。

創設から2年足らずですが、営利目的ではなく会員のための施策が実を結びつつあります。

今後も皆様のご支援をよろしくお願い致します。

## 初めての昇段審査実施

初夏の様相を見せる5月26日（日）に、戸田道場設立後初めての昇段審査が実施され、初段に作道泰二1級、2段に藤本努初段、寒作典員初段、杉野弘昭1級のいずれも本部（潮見）道場の4人が挑戦しました。

作道1級は知る人ぞ知る剣道7段、剣の達人で6年前から剣を拳に変えて齢70を超えての受審でした。

藤本、寒作の両名は数々の大会出場を経て、15年を超える極真空手歴を有する戸田道場の猛者です。

また、杉野1級は20年程前に2段を取得し、前組織では師範代をしていた人物で、長いブランクの後、平成24年6月に戸田道場に再入門し白帯を締めて地道に稽古を積み、茶帯を経て再び2段に挑んだのでした。

夏のような高い気温の中、4人は基本、移動、そして型を全力でこなし、柔軟、棒飛び、逆立ち、ボール飛び、腕立て伏せ100回という体力審査へと進み全てをやり遂げました。

作道さんは時にはふら付きながらも、皆に必死で喰らいついていきました。

最後に昼食休憩も取らず、休む間もなく暑い最悪の条件の中で連続組手が始まりました。

藤本、寒作の両名は、この日のために集まった黒帯11人と受審者同士で容赦ない攻撃を受け、ふらふらとなりながらも、最後は雄叫びを上げて闘い連続20人組手を完遂したのです。

作道、杉野両名は年齢も高いことから組手は散発的に行い、数は少ないながら、しっかりやり遂げました。

この日、本部道場には、多くの会員やご父兄が集まり審査の様子を見守っていましたが、手加減のない審査に極真の昇段の厳しさを改めて確認した様子です。

後日、戸田代表から全員に合格の報がなされました。



昇段審査の様子 左より 作道、藤本、杉野、寒作（敬称略）

## グランドチャンピオン大会・全日本ウェイト制大会

6月29日（土）に大阪府立体育館でグランドチャンピオン大会が、翌日30日（日）に全日本ウェイト制大会が開催され、戸田道場からウェイト制大会重量級に志賀選手が出場しましたが、1回戦北海道優至会の強豪渡部紫苑選手と対戦し、激しく攻撃したものの僅差の判定で敗れました。

両大会ともに、多くの他流派が参戦し白熱した闘いが行われ、ウェイト制大会は全階級極真会館が優勝しました。

両日ともに観客が満員で華やかな大会となりました。

戸田道場からは審判とスタッフに8名が参加し、全国最多の派遣人数でした。



志賀選手の活躍を願って～壮行会の様子～

## 戸田代表の空手指導がテレビ放映

7月24日に、TBS系列の「あいテレビ」夕方のニュースで、戸田代表の警察退職後の空手指導の生き様を描いたドキュメンタリーが、10分近く放映されました。

本部道場での稽古風景や大洲警察署武道場での強化稽古など戸田代表の力強い指導や空手に対する考えがインタビューされ、その中でも家族と触れ合う様子も映し出され、代表の空手に対する情熱と人柄がにじみ出ており、多くの反響が寄せられ、戸田道場の活動が広く認知されました。



取材時の様子

## 香川県大会出場

8月18日に高松町総合体育館で行われた香川県大会の、各階級に戸田道場から14人の選手が出場しました。

一般上級の部に出場した志賀選手は、準決勝で優勝した斉藤選手と当たり、激しい闘いを繰り広げましたが延長で判定負けし3位に入賞しました。

他の選手は入賞できませんでしたが、その強さに極真連合会の師範方から称賛の声が起こっていました。

志賀選手は他流派の強さを身をもって体験し、次につなげる経験となりました。戸田道場から5人が審判としてお手伝いしました。



3位に入賞した志賀選手を皆で囲んで

## 夏合宿の実施

8月31日（土）・9月1日（日）の両日に、大洲青少年交流の家において恒例の夏合宿が開催されました。

参加者は76人と冬合宿より若干増えました。

初日は、ステップやミット稽古をした後、審判講習会を行い、審判技術の向上を図り、最後に全員でスパーリングを行いました。

夜は恒例の懇親会で懇談し、大人はお酒を飲んで盛り上がり、少年部はトランプゲームで賞品を目指して白熱し、参加者の仲間意識が強まりました。

二日目は、早朝5時30分から型をじっくり行い、朝食後の稽古は肱川河原でスイカ割りをする予定でしたが、台風の影響で雨が激しく降り、体育館で回転移動や投げの稽古を行い、その合間に片足相撲などのゲームをして学年で分けて1位から3位まで賞品

を獲得するなど、趣向の変わったことを行い絆を深めました。



2013年 夏合宿 集合写真

## 2回の昇級審査

6月9日に東予体育館武道場で東予地区の会員を対象に、6月16日に本部（潮見）道場で松山と大洲の会員を対象に合計35人が今年2回目の昇級審査にチャレンジしました。

さらに9月29日に、坊ちゃん球場スポーツフロアにて今年最後の昇級審査を行い45人が受審しました。

いずれの審査も全員懸命に取り組み、多くの人が飛び級し帯の色が変わりました。

### 6月審査結果

#### 少年部

- 10級～伊東琳（川東）、大西楓（東予）、二宮快地（潮見）、河田圭晃（潮見）、  
宇高悠斗（潮見）、大盛結人（大洲）
- 9級～藤本一輝（川東）、水戸川怜斗（波方）、山本珠莉也（潮見）
- 8級～曾我部歩果（川東）、曾我部綺莉（川東）、一色駿楓（東予）、渡辺晶（波方）、  
河田航太郎（潮見）
- 7級～真鍋武琉（川東）、高橋みのり（川東）、日下承竜（波方）
- 6級～村上彪人（川東）
- 5級～渡部永久（川東）、高瀬晴（東予）、水戸川琉希（波方）

4級～白石麻伊（波方）、白鳥光希（川東）

#### 一般

9級～松井志輔（波方）

8級～阿部拓実（大洲）、鍵本展宏（潮見）

7級～藤原弘之（川東）、伊東晶子（川東）、白鳥美月（川東）、高瀬充夫（東予）、  
河田泰実（潮見）

5級～烏谷伸（潮見）

4級～名田周平（潮見）、藤原翼（東予）

2級～木原康文（波方）

### 9月審査結果

#### 少年部

10級～高瀬快（東予）

9級～福岡洸大（潮見）、堀内颯太（波方）、伊東楓（川東）、伊東櫻（川東）

7級～山本珠莉也（潮見）、山岡竜斗（大洲）

6級～河田航太郎（潮見）、林建作（潮見）、池川晃太（川東）、曾我部歩果（川東）、  
菊川姫梨（波方）、久保幸輝（大洲）

5級～村上晴哉（東予）、高橋みのり（川東）、曾我部彩葵（川東）、久保晴輝（大洲）、  
福井天翔（大洲）

4級～仙波隼（潮見）、近藤さやの（潮見）、岩井玲樹（潮見）、矢野祐弥（川東）、  
曾我部立樹（川東）

3級～鳴田愛弓（波方）、高瀬晴（東予）、渡部永久（川東）、仙波晃（潮見）、宮園圭人  
（潮見）、矢野楓弥（川東）、白鳥光希（川東）

#### 一般

7級～松本晃一（大洲）

5級～河田泰実（潮見）、伊東晶子（川東）、白鳥美月（川東）、藤原弘之（川東）

4級～高瀬充夫（東予）、丹下英人（県警）

3級～烏谷伸（潮見）、八木聖也（波方）

2級～菊川豊（波方）、名田周平（潮）

1級～宮崎大希（波方）





6月に本部道場で行われた昇級審査の様子

## 第一回オープントーナメント愛媛県選手権大会開催

10月13日（日）に坊ちゃん球場スポーツフロアにおいて、戸田道場が主催した記念すべき「第1回オープントーナメント愛媛県空手道選手権大会」が行われ6会派から選ばれた119人の強豪選手が優勝を目指して闘いました。

会場には愛媛ケーブルテレビのカメラが入り、実況録画中継が行われ大きな反響を呼び、愛媛新聞の記事と共に広く県民に大会の様子を知ってもらうことができました。

3位決定戦と決勝の前には、東予道場の榎3段が指揮して、少年部演武が行われ基本、移動、型、板割などを行い大きな声援が起きました。

最も注目を浴びた一般上級の部決勝では、戸田道場の志賀選手が如水会館の齋藤大佑選手が闘い、斉藤選手の上段回し蹴りが技ありとなり優性勝ちとなり第一回大会の記念すべき優勝の栄冠をました。

その他の階級も白熱した闘いが繰り広げられました。

### 入賞者

小学1年生 優勝 岡田大和（福田道場） 2位 曾我部豪太（秋山道場）  
小学2年生 優勝 石井仁（真煌会館） 2位 北彩花（秋山道場）  
小学3年生 優勝 市原崇大（福田道場） 2位 石川楓哉（福田道場）  
小学4年生女子 優勝 近藤さやの（潮見道場） 2位 渡部はるあ（如水会館）  
小学4年生男子 優勝 岡銀次郎（如水会館） 2位 二神京平（如水会館）  
小学5年生男子 優勝 市原滉大（福田道場） 2位 大口嵩弥（如水会館）  
小学6年生男子 優勝 竹田智也（如水会館） 2位 一色陽太（東予道場）  
中学生男子 優勝 切詰大貴（真煌会館） 2位 石原颯（秋山道場）

中学女子 優勝 渡部聖（如水会館） 高校生男子 石原翔（秋山道場）  
壮年の部 優勝 高橋司（福田道場） 2位 佐藤央一郎（福田道場）  
一般初級 優勝 青山純也（福田道場） 2位 永易大典（福田道場）  
一般上級 優勝 齋藤大佑（如水会館） 2位 志賀賢一（東予道場）



開会式の様子



開会式であいさつをする戸田代表

## 強化稽古に如水会館参加

11月10日（日）に本部道場において一般部選手強化稽古が行われました。

参加者 18 人うち如水会館の河野分支部長、松本指導員、そして先日行われた愛媛県大会で優勝した齋藤大佑選手の 3 人も参加し気合いが入った稽古となりました。

まずステップワークを行った後に、ミットを使って各種パンチや蹴りの打ち込みを行い、その後ビックミットを 2 分 1 ラウンドを繰り返しました。

最後に受け返しをしてから、スパーリングを 10 ラウンド行い稽古を締めました。

戸田道場の中だけでなく、齋藤選手など強豪の如水会館の方たちと切磋琢磨することは今後の技の上達のために非常に有益なことでした。

今後も他流派との合同稽古、出稽古により強さを追及していく予定です。



稽古後の集合写真

## 第 45 回全日本大会開催

12 月 1 日（日）に大阪府門真市のなみはやドームメインアリーナで第 45 回全日本大会が開催されました。

今回から一般無差別以外に壮年 A（40 歳代）、壮年 B（50 歳代）、女子無差別、壮年女子（40 歳以上）のカテゴリが増えました。

一般無差別級に戸田道場の代表として参戦した志賀選手は、1 回戦は強豪の山形県田畑道場の内弟子黒沼誠選手と対戦し、積極的に攻めて判定勝ちしました。

しかし、2 回戦は関西総本部内弟子の金選手と戦い、やや劣勢となり僅差で判定負けを喫しベスト 8 入りを逃しました。

金選手は 3 回戦で、白蓮会館のチャンピオン内藤貴継選手と当たり、志賀選手との戦いのダメージもあり一本負けました。

その内藤貴継選手は得意の飛び膝蹴りを駆使し、対戦者を次々沈めていって決勝戦に上がり、極真会館兵庫県琉道會の極真連合会のホープ長田裕也選手と当たり 2 回の延長

戦でも勝負がつかず、体重判定となりましたが差がなく最終延長戦で長田裕也選手の僅差による判定勝ちとなり、極真会館が他流派に勝ち牙城を守りました。



志賀選手（右側）の1回戦

## 戸田代表、高段者昇段審査において5段合格

全日本大会の翌日である12月2日（月）になみはやドームサブアリーナにおいて、4段以上の高段者審査会が行われ、戸田代表は過酷な審査をやり遂げ見事合格し、併せて公認師範となりました。

審査の状況は、サポートの為に同行した新居浜川東道場の濱井2段が次の通りレポートしています。



高段者昇段審査にて 戸田代表

## 過酷な昇段審査に立ち会って

新居浜川東道場 濱井敦史

長田裕也選手の優勝で幕を閉じた2013年12月の社団法人極真会館主催、第45回全日本空手道選手権大会。その興奮冷めやらぬ翌日、同じ会場のなみはやドーム内にて恒例の四段以上の高段者審査会が行われました。

極真連合会の小井会長、田畑理事長他理事の師範方が審査員となり、四段から六段までの受審者が審査に挑みました。

わが師戸田師範は今回五段を受審いたします。高段者ともなればそこそこの年齢。戸田師範も61歳での挑戦です。高段者審査がどのような内容なのか、興味深々で新居浜の青野責任者とともに審査の状況を見守りました。

号令は現役選手当時、怪物と恐れられた七戸副理事長（極真会館沖縄県支部長）です。参加者全員の緊張感が漂う中、審査が開始されました。

独特の節回しで号令をかける七戸師範。準備運動の後、早速基本です。

「1、2、3・・・10・・・20・・・」さすが高段者審査、基本は各30本するのかな？

「30、31・・・」あれ、50本かな？

「50・・・60・・・70・・・」いつまでたっても終わらない。一体どうしたことかと固唾をのみながら注視しておりました。

やっと会長から号令終わりの合図です。結局100本突きでした。それがなければ延々と続いていた恐ろしい基本のスタートです。これで、この審査が通常の昇段昇級審査とは全く次元の違う物だと悟りました。冷や汗とともに嫌な胸騒ぎも起こり始めました。

基本が終わると、同じく長い長い移動。この時点で受審者全員にかなり疲労が見えてきました。しかし戸田師範は疲れているとはいえ、水分補給時に笑顔を見せる余裕があり、まだまだ大丈夫だと確信致しました。

その後の体力審査の拳立て伏せ、腹筋、スクワット各50回終了。と、その時です。七戸師範が、再度拳立て伏せの号令をかけ始めました。なんと高齢の高段者に対して容赦ない試練です。これまた延々と繰り返され、結局5セット各々250回ぶっ通しでした。これは大変な審査です。既に受審者の方々は足腰にかなり負担がかかっているようで、筋肉の痙攣からか休憩する方も出ております。戸田師範は不屈の闘志で完遂です。しかし顔面蒼白、気力のみ状態だと直ぐ分かりました。青野責任者も目を潤ませながらの応援です。同じ苦しみを味わおうと拳立て伏せ、腹筋、スクワットを号令に合わせて行っておりました。

続いて型の審査。平安から五十四歩まで一七の型を次々と演じる戸田師範。他の受審者がところどころ間違える中、師範のみ全ての型を流れるがごとく演じ続けます。これ

には審査員の師範方も大きく頷きながら見守っておりました。演じきった後、思わず拍手を送ったものです。私には見た目に意識が朦朧とした状態なのに、全ての型を間違えずに行えたことが不思議な感じでした。

後に戸田師範がおっしゃっておられました。「型の時は、自分の意志ではなく、身体が勝手に動いたんだよ」と。普段の稽古で体に覚え込ますとは、まさしくこのことだと身を以て体現して下さいました。

そんな審査も、後は組手を残すのみです。ここまで既に立っているのがやっとの受審者。極真名物の連続組手で審査も終わりです。組手の相手として、遂に私たちの出番が来ました。気合十分です。もうどんな内容になろうとここまでくればやるしかない。そんな気持ちでした。まるで自分が審査を受けているような錯覚さえ起こります。

まずは突き、蹴りの受け返しを10人近く行ったでしょうか。我々は交代しながら行うのですが、受審者はぶっ通しです。皆さん既に息が上がっているのがよくわかります。

そして本番の連続組手が始まりました。1人、2人と進むにつれ、師範の顔が苦痛で歪んでおります。10人が終わりましたが、更に続きます。何人やるのか分からないのが不気味です。顔面蒼白というより鬼気迫る形相で対戦相手に迫ってくる戸田師範。途中で右足が痙攣し、更に嘔吐しそうになり嗚咽しながら、休まず気力を振り絞り気合いを入れて、突き蹴りを返してきます。そんな戸田師範に対して我々も決して気を抜けませんでした。苦しいのですが、こちらも精一杯攻撃いたしました。そして、小井師範から最後の合図が出たのが20人目。戸田師範の相手は自ら名乗り出た長田師範（極真兵庫琉道会代表）です。そう、前日優勝した長田裕也選手のお父上です。最後の最後まで大きな大きな長田師範を相手に攻撃の手を緩めない戸田師範。すばらしい気迫で連続組手完遂です。

目のうるうるが止まりません。どんな結果であろうと今回の審査は、戸田師範は自分の限界を超えて行ったと確信しております。還暦を過ぎた人には思えません。過去の審査でも身体中ボロボロになり、このまま逝ってしまうのではいかと思ったそうですが、今回はそれを超える内容の審査。さすがに審査員の方々が帰られると、その場にへたり込んでしばらく立てない状態でした。帰りの車の中でも「うつらうつら」されていて心配しましたが、四国に入ると俄然元気になり、サービスエリアでカツカレーをバクバク食べ、新居浜に着くと、迎えに来た奥様を助手席に乗せ、自分で運転して帰るほど回復されており恐れ入りました。

後日お聞きすると、翌日から通常通り出勤して仕事をされ数日経っても、どこも痛くなかったそうで「火事場の馬鹿力が出たのかな」とおっしゃる師範はまさしく怪物です。

長年厳しい刑事の仕事と並行して空手修行を続けてこられた成果が出たのだと思います。百聞は一見にしかず！と申しますが、高段者審査を見学、そして組手の相手をさせていただいた今回、自分達は何物にも代えがたい経験をし、そして脳裏に師の雄姿を焼き付けることができました。大きな収穫です。

二日後に七戸師範から来た連絡は、五段昇段合格というものでした。当然の結果ですが、我が身のごとく嬉しく感じました。

今回の審査でお世話になった小井師範、田畑師範、七戸師範、岡田師範、高橋師範、橋本師範、長田師範、本当に良い機会を与えて下さり有難うございました。極真の帯の重さをあらためて考えさせられた一日でした。

これぞ極真魂！古き良き極真精神を継承し、明日の戸田道場を担っていく若者をどんどん育て、そして自分自身もより一層の努力を怠らず、修行に邁進していく所存です。これからの極真会館戸田道場に栄光あれ。

押忍